

上峰中 職員室だより  
令和3年度 No.44  
2021.12.17  
校内研究会  
発行:北原



# 鎮西

※町の名山:鎮西山(標高202m)

《めざす教師像》

- ❖使命感をもち、研鑽に努める教師
- ❖生徒理解に努め、信頼される教師
- ❖生徒を認め、励まし、伸ばす教師
- ❖生徒の心に灯(火)をともし教師

## ◎ 11/25(木)道徳授業公開の指導助言(口述記録)



【武雄北中 教頭 足立成美先生から】

1. はじめに

- 道徳の時間というのは「答えを探す時間」ではないですよ。先生方は子どもたちに「正解」を求めたりしていませんよね。生徒たちの「自分の考え」で授業を繋いでいくのが、道徳の授業です。
- 自分が昔、道徳の授業をやっていた時、校長先生から「国語的だ」と言われた。そういわれたとき、それが何か自分でわからなかった。
- 道徳って何か読み取りをしているような授業になってしまってますか？ それは、「正解」を求めているからです。子どもたちに考えさせよう、こんなことを発表させよう、それをもてばもつほど、「正解」を求めてしまうんです。子どもは「正解」を探す考え方に陥ってしまいます。これが国語的道德です。
- 今日の子どもたちは、「正解」を探していません。自分の心の中から自分の考えを発表しています。これができているので、池田先生は道徳の授業が楽しくなったのだらうなと思います。

2. 「評価」について

(1)「価値理解の深まり」について → ツ

・矢動丸君:「今日の授業で僕が考えたことは、人と人が支え合うという能力があるから人類はここまで進化できて生きてこられたと思う。どんな生物だってできることやできないことがあって、支え合い、補うことができるからこそ生きていけるんだと思う。人と人との関係性、支え合うことが将来大切なことだと思う。」

→彼の哲学的な考え方で、道徳的価値に気づき、深まったということが素晴らしい。これは、「価値理解の深まり」として評価ができるものです。

(2)「多面的・多角的な広がり」について → バ

・下川君:「自分が赤ちゃんの時、自分を支えてもらっていると感じた。友達から聞いたなかで、家族との時間を増やすことに、なるほど!と思った。」

→今日の対話活動で、新たな価値を獲得できています。これは、多面的・多角的な広がりとして評価ができます。

(3)「道徳的实践意欲」について → キ

・井手さん:「家族の大切さが改めてわかりました。何かしてあげることが「支え合いではない」ということがわかりました。今回の授業で、家族との時間をもっと増やしたいと思いました。こないだ、おばあちゃんちに行った時に、喜んでくれたことを思い出しました。また、行こうと思いました。私にとっておばあちゃんは宝物です。」

→このコメントから、鹿児島のおばあちゃんのことを思い出し、自分と重ねた関わり方ができています。これは、「道徳的实践意欲」の評価ができると思います。

○先日、中学校で殺傷事件がありました。実に悲しい出来事でした。もしかして、道徳の授業がしっかり行われていたら、こんな事件もなかったかと思うと、道徳が将来に通じる尊い時間になっていると、私は思っています。

○真子さんの報道も同様です。誹謗中傷されている状況を見て、報道の在り方も気になりますが、ネット上での言いたい放題の状況は、当該者はもとより、日本人としてのモラルの在り方が問われています。まさに道徳の時間に考えたい問題です。子どもは必ず大人になります。その基盤となる学校教育の責任がこれから問われてきます。道徳は生きる力の源です。先生方、しっかり頑張らないといけません。





### 3. 研究協議の柱について

#### (1) 発問について

- ・「発問後に返ってくる返答が「単語」ではなかったですか？」  
単発の単語が悪いのではなく、単発の単語を繋いでいく問い返しが必要です。「でもさ？」「それって？」  
「ん、どんなこと？」と、とぼけるような問い返しが大切です。「なるほど」「すごいね」で終わっていないか  
ったでしょうか？ 子どもたちのあの対話力や考える力をもっているのにもう一つ深まらなかったこと  
はこれからの課題です。
- ・「支え合うって、何？」と問うてみることで、家族のつながりや絆に繋がっていくと思います。「何？」の  
発問って、とても難しいから様々な価値が広がっていくと思うのです。

#### (2) 「学び合い活動」の在り方は？

- ・「学び合い活動」の目的は、広げること。
- ・例えば、グループ協議は新開先生の進行で素晴らしかったと思います。ワールドカフェのやり方で、「今日は居酒屋に来たつもりでおしゃべりしましょう」というのが良かった。しゃべりが盛り上がりがないとい  
けない。今回、ワークシートに友達の考えを書くこと(写すこと)に終始していた感じが見えた。紙に書い  
てまとめよう、整理しようとするのが重要なことではありません。紙に書くと、人間は冷静になるので  
本当の気持ちを出さなくなる。とにかく、しゃべることが情意の本質となります。どんどんしゃべらせる  
活動が大事です。

#### (3) 「板書」について

- ・お世辞抜きで、板書が素晴らしかった。松永先生の能力にびっくりした(笑)。  
どこが、素晴らしいかというと、子どもが言った意見の記録ではないこと。子どもたちが考えた意見が  
価値付けしているし、肯定化されている。  
できれば、授業者がこの板書をつかって授業展開してもらいたかった。この板書のところに行って、まる  
で囲んだり、矢印をつけたりすると、子どもたちの価値が構造化され、授業を振り返ることができる。そ  
ういう振り返るための構造化された素晴らしい板書であった。
- ・それから、校舎内に写真がたくさん張られています。校長先生が子どもたちの学校生活の様子を写真に  
収め、コメントされている。道徳推進校としてとても素晴らしい取組です。  
一方で、道徳の教材を板書に張るときは、写真より絵の方が効果的です。写真を張ってしまうと偶像化  
され、自分から遠い存在になってしまいます。しかし、絵に替えることで、写真と違って自分を投影して  
くれる身近な教材となってくれるのです。写真は写真の価値があり、絵は絵の効果がある。道徳の教材  
を張るときは写真ではなく、できれば絵にしてみてください。



### ◎ 来年度の校内研究に向けて

#### ① 校内研究について

道徳教育3年目を迎え、質の高い研究内容と学年を軸とする授業研究体制は、年を重ねるごとに職員  
への道徳教育の深まりが見られました。道徳教育には、「教師の存在そのものが最も重要な教育環境」と  
いう根本があり、生徒指導や学習指導を行う上での基盤となっていると考えています。今後も、上峰中と  
言えば、「道徳教育」と言われるような学校づくりを行っていきたいと考えています。

#### ② 校内研修について

校内研究会の中に「校内研修」があります。一人1台端末が貸与され、一定のGIGAスクール構想にも着  
手していかなばなりません。実際、端末をどのように活用していくのか、特に授業活用については疑念も  
ありますが、活用についての職員研修(講師招聘)を仕組み、子供たちの学力向上に向けた、効果的で効  
率的な取組を新年度から行っていきたいと考えています。

➡そこで、(案) 以下の両輪を駆使すれば、タブレットドリルの定着化が図られ、一元管理もできるのでは？

①端末を持ち帰り、家庭学習としてタブレットドリルを課題化していく。〔5教科の副教材をどうするか？〕

②学校においては、朝の時間をモジュール化し、タブレットドリルで確認テストを行っていく。

次回の校内研において、「校内研修」の時間を取り、タブレットドリル体験を行っていただき、上記①②に対応できるかを検討いただきたい。2月末までに、副教材化できるかどうか決めたいです。

A:タブレットドリルと副教材(ワーク等)併用 B:タブレットドリルのみ C:タブレットはモジュールのみ活用